

知っていますか？ 北方領土

〈富山県編〉



北方領土返還要求運動富山県民会議

北方領土ってどこにあるの？	2
北方領土ってどんな島なの？	4
北方領土は日本の島なの？	6
北方領土の国境はどうなっているの？	7
日口間の最近の動きはどうなっているの？	9
どうしたら北方領土は返ってくるの？	10
富山県と北方領土とのかかわり	12
富山県における返還運動	16
北方四島との交流事業	18



ま え が き

みなさんは、「北方領土」ということばを、見たり聞いたりしたことがあると思います。

しかし、北方領土がどこにあるのか、どんな自然が広がっているのか、そこでの人々の生活はどのようなものなのか、などについて答えることができる人は少ないのではないのでしょうか。

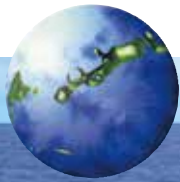
また、富山県は、北方領土からの引揚者が、北海道に次いで多い県です。北方領土は、私たちの祖父母が苦勞して開拓したふるさとなのです。

このパンフレットは、北方領土の自然や歴史などについて、次代をになう皆さんに、少しでも知っていただくために制作したものです。

みなさんが、このパンフレットを読んで、北方領土問題について、理解を深めていただくことを願っています。



根室半島上空から望む歯舞群島



北方領土ってどこにあるの？

◆北方領土の位置について

「北方領土」とは、北海道の東にある根室半島につらなる^{はぼまいぐんとう}歯舞群島、^{しこたんとう}色丹島、^{くなしりとう}国後島、^{えとろふとう}択捉島の4つの島々のことです。これらの島々は「北方四島」とも言います。

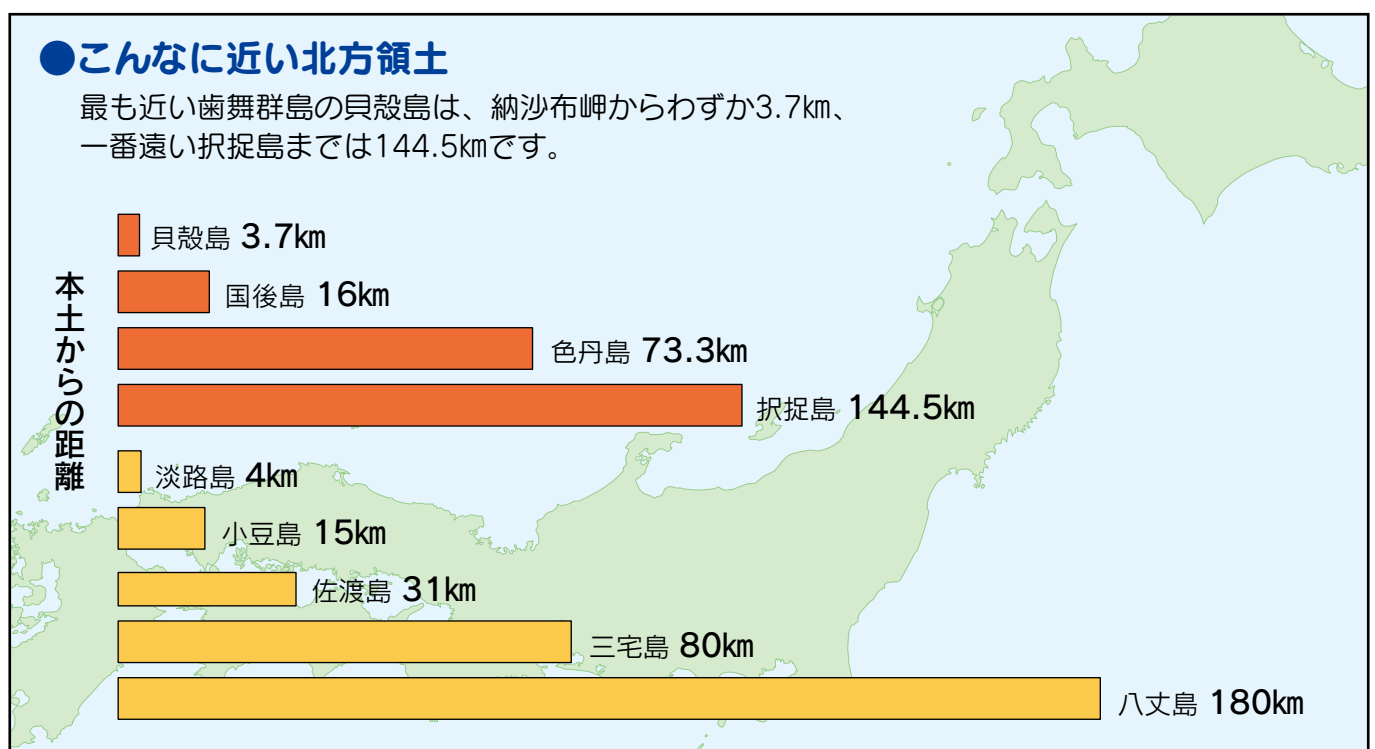
北方領土はとても遠い場所だと思っているかもしれませんが、最も近い歯舞群島の貝殻島までは、北海道本島からわずか3.7kmしか離れておらず、望遠鏡で灯台をはっきり見ることができます。

また、国後島までは16kmで、本土と佐渡島との距離（31km）の約半分です。色丹島までは73.3km、択捉島までは144.5kmという距離です。北方領土とはこんなに近くにある島々なのです。



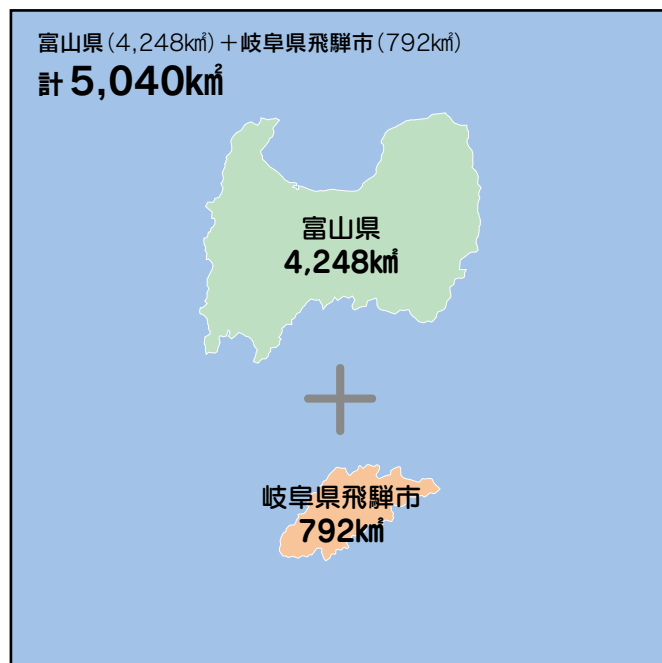
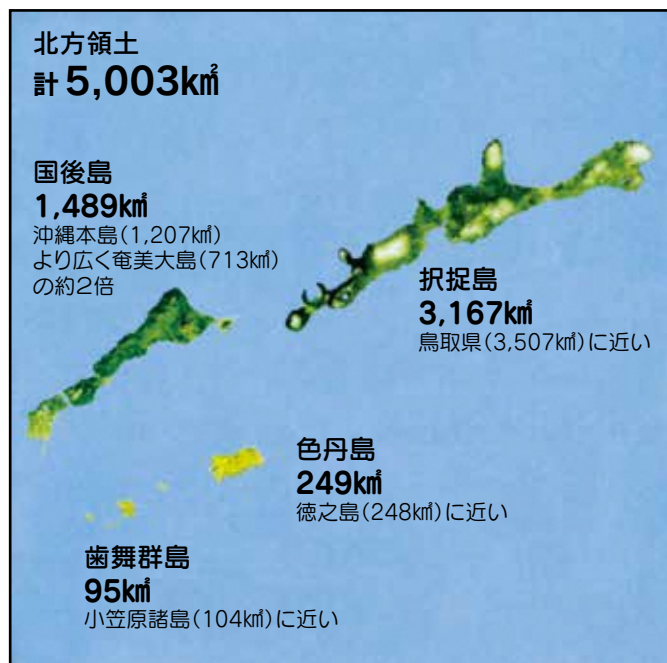
●こんなに近い北方領土

最も近い歯舞群島の貝殻島は、納沙布岬からわずか3.7km、一番遠い択捉島までは144.5kmです。

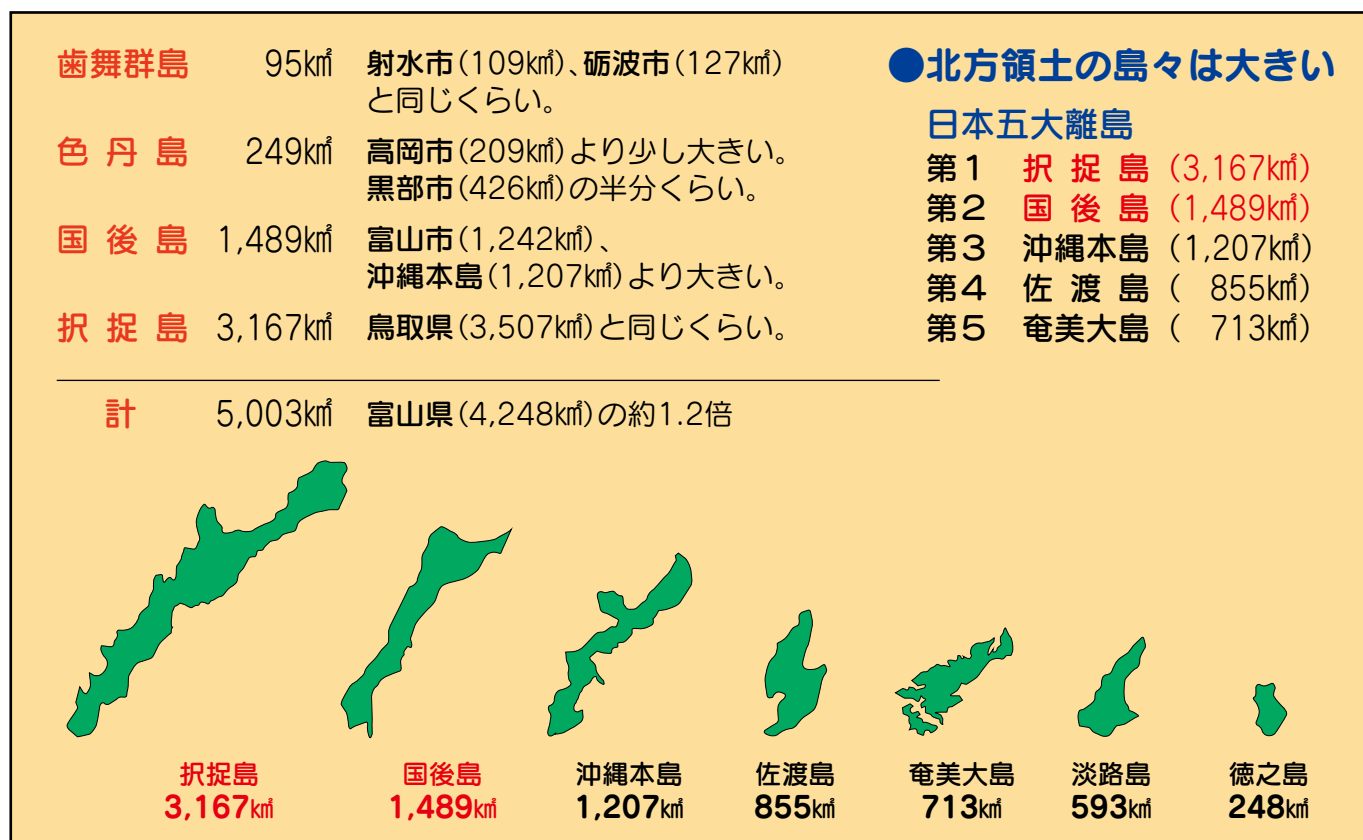


◆北方領土の面積について

北方領土の面積の総計は、5,003km²で、富山県の面積（4,248km²）の約1.2倍の広さです。国後島と択捉島は、沖縄本島より大きな島で、一番大きな択捉島（3,167km²）は鳥取県（3,507km²）と同じくらいの広さです。



北方領土の面積を日本各地の島々や県・市の大きさと比較してみましょう。





北方領土ってどんな島なの？

北方領土の中でも、国後島と択捉島には、海拔1,500mを超える山がありますが、歯舞群島と色丹島は、ゆるやかな起伏のある土地です。

北方領土には、キタキツネ、ゴマフアザラシ、オットセイ、トドなどたくさんの動物が住んでいます。国後島や択捉島には、ヒグマも住んでいます。また、エトピリカ、エゾライチョウ、オジロワシといった珍しい鳥も多く見かけます。

北方領土の周辺の海は、暖流と寒流が交わる場所であるため、世界3大漁場のひとつとなっています。特に、サケ、マス、タラ、タラバガニ、コンブ、ホタテなどの宝庫です。



北方領土というと、厳しい寒さを想像するかもしれませんが、海流の影響のため、冬は北海道の内陸部より暖かく、雪も少ない場所です。2月の平均気温は、マイナス6℃前後です。

夏は、一番暑い8月でも月の平均気温が16℃で、あまり高くありません。夏は、海霧（ガス）がかかって日照時間が少ないことや、オホーツク海から冷たい空気が入ってくるからです。

◆北方四島での人々の生活

第二次世界大戦終了後、ソ連軍に占領されるまで、北方四島には日本人が住んでいました。

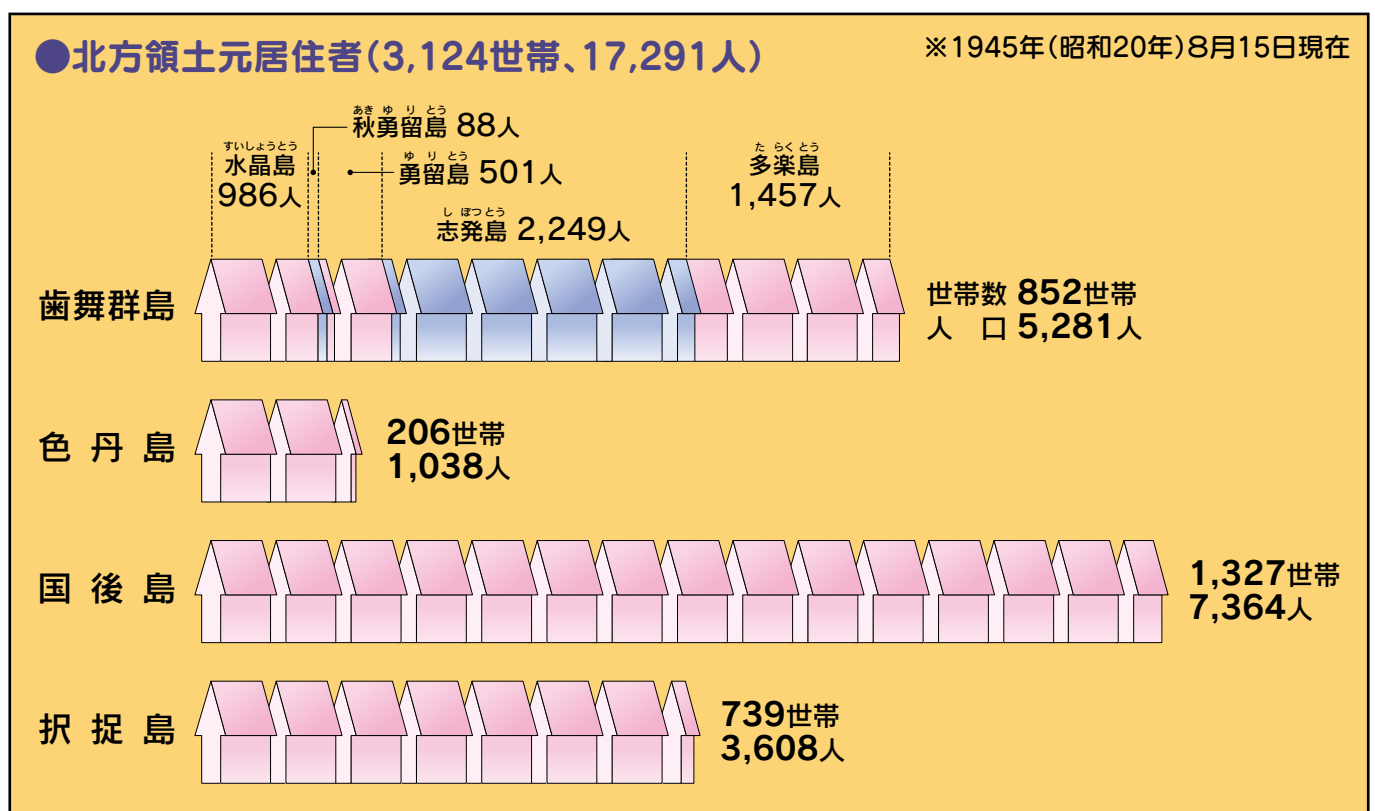
北方四島の住民のほとんどは、漁業に従事していました。はじめは親方（網元）に雇われていた人が多かったのですが、やがて独立して、家族とともに移り住むようになっていったのです。

島での住宅は、ほとんどが木造であり、風が強い土地であったことから平屋造りで小さなものでした。

日常生活に必要なものの大部分は、船で北海道本島から運ばれてきました。そのため、輸送費がかかり、島での物価は高かったといわれています。その上、冬の間は暴風や流水でしばしば船が来なくなり、新聞や郵便物のほか、日常の品の運搬も長くとだえることがありました。そのため、島では、食料などの必要な品物は、翌年の春までの分を秋のうちに買い入れておきました。

最も困るのは、急病人やけが人が出た時でした。島には、医者も病院も少なく、設備も整っていませんでした。そのため、急病人の手当が間に合わないことも多くありました。

このように、島での生活は、不便なことや困難なことも多かったのですが、豊かな漁場や森林などに恵まれていたため、生活は次第に豊かになっていきました。島をふるさとと決めた人々は、将来に明るい希望を持って、一生懸命に働きました。



注：平成18年3月千島歯舞諸島居住者連盟調べ



北方領土は日本の島なの？

日本が、北方の島々のことを知ったのは、17世紀初め頃です。

1644年（正保元年）に江戸幕府が「正保御国絵図」という地図を編さんしましたが、このとき松前藩が幕府に提出した自藩領地の地図には「くなしり」「えとろほ」など、現在の島名と同じ名前が書かれています。

ロシア人が初めて千島列島を探検したのが1711年（正徳元年）のことですから、約100年も前から日本は北方の島々とかかわりをもっていたのです。

●正保御国絵図1644年（正保元年）

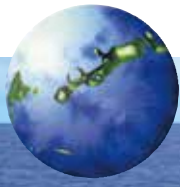


18世紀後半になると、国後島、択捉島を中心に、最上徳内、高田屋嘉兵衛、近藤重蔵といった日本人が活躍しました。

江戸幕府は1798年（寛政10年）、蝦夷地（北海道）に大規模な調査隊を派遣しました。このとき、近藤重蔵が最上徳内とともに択捉島に渡り、「大日本恵登呂

府」と書いた標柱を建て、日本の領土であることを明らかにしました。

このような歴史的事実や当時の実情から考えても、北方領土は古来からの日本の領土なのです。



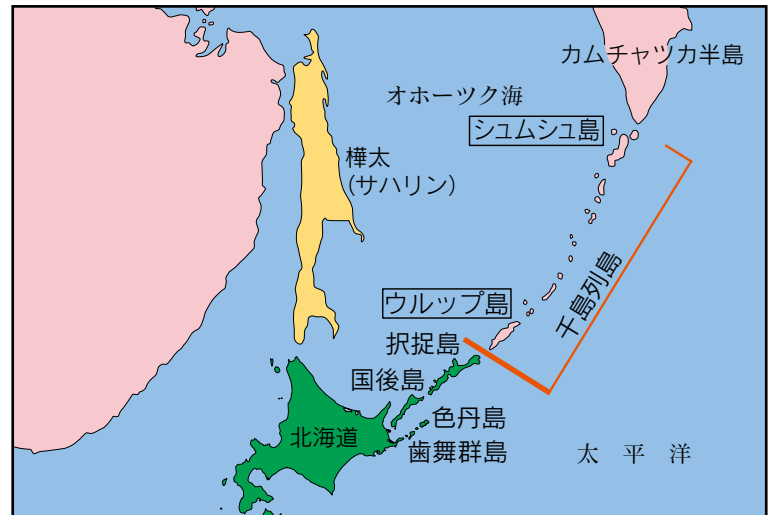
北方領土の国境はどうなっているの？

1855年（安政元年）、日本とロシアの間で「日魯通好条約」が結ばれました。この条約で、両国の国境が択捉島とウルップ島の上に定められました。ウルップ島から北の千島列島はロシアの領土、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島は日本の領土であることが、この条約によって法的に確定したのです。このとき、樺太（サハリン）については、国境は決めませんでした。

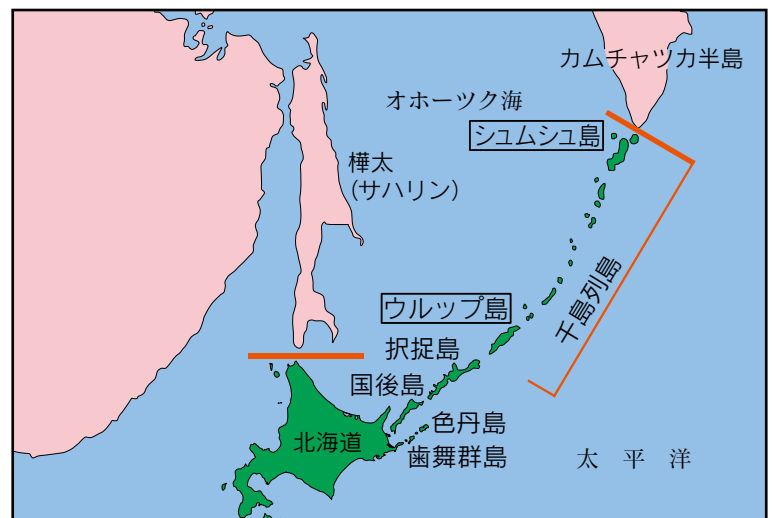
1875年（明治8年）、日本はロシアと「樺太千島交換条約」を結びました。日本は樺太での権利を放棄するかわりに、千島列島をロシアから譲り受けたのです。この条約には、譲り受ける千島列島として、シムシュ島からウルップ島までの18の島の名前が挙げられています。つまり、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島は、千島列島には含まれないということなのです。

1905年（明治38年）、日露戦争の結果、日本とロシアは「ポーツマス条約」を結びました。このとき、樺太の南半分が日本の領土となりました。

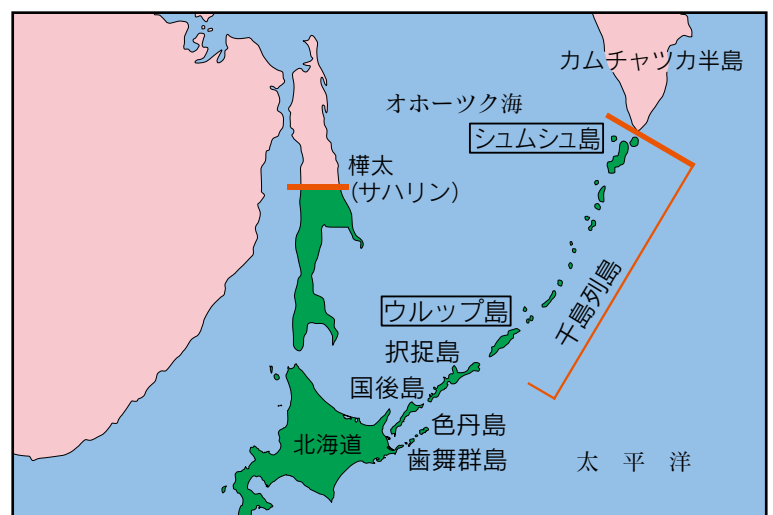
●1855年の日魯通好条約に基づく国境線



●1875年の樺太千島交換条約に基づく国境線



●1905年のポーツマス条約に基づく国境線



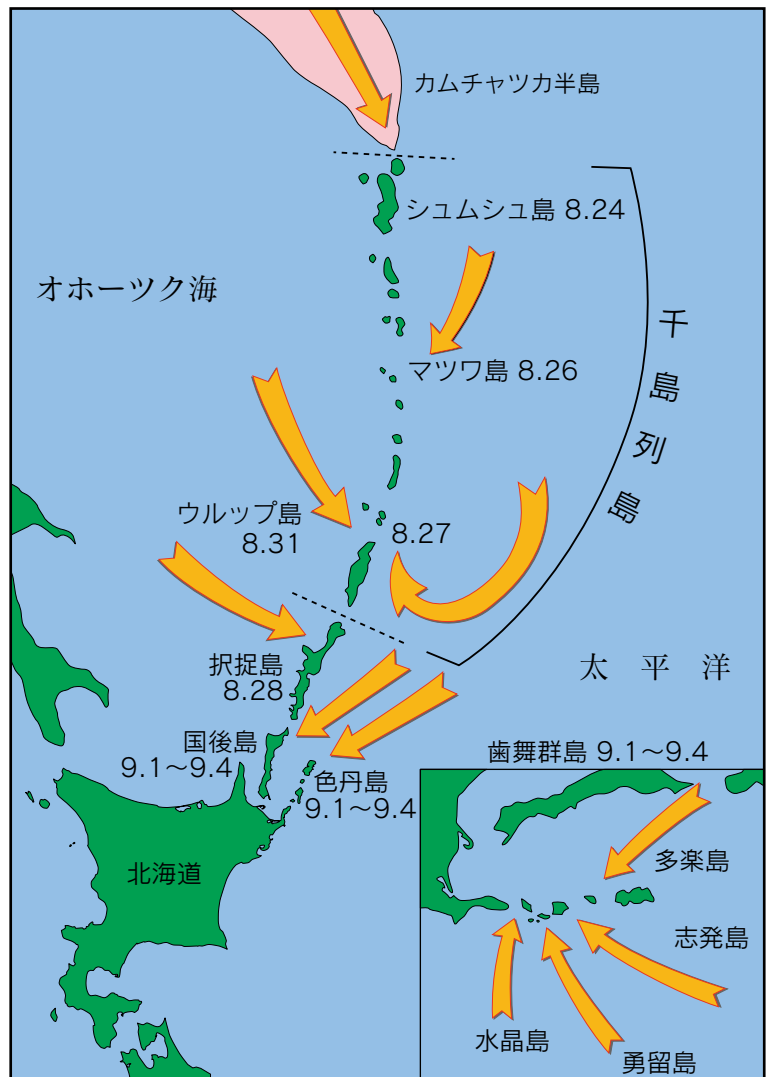
第二次世界大戦末期の1945年（昭和20年）8月9日、ソ連は当時有効だった「日ソ中立条約」（1941年締結）を一方的に破棄して、日本に対し宣戦しました。ソ連軍は、第二次世界大戦終了後の8月18日より千島列島への攻撃を開始し、8月28日に択捉島に上陸、次いで国後島、色丹島、歯舞群島と、遅くとも9月5日までに、これら四島をすべて占領してしまいました。

その後、現在まで、これら北方四島は、ソ連（現在のロシア）に不法占拠された状態が続いています。

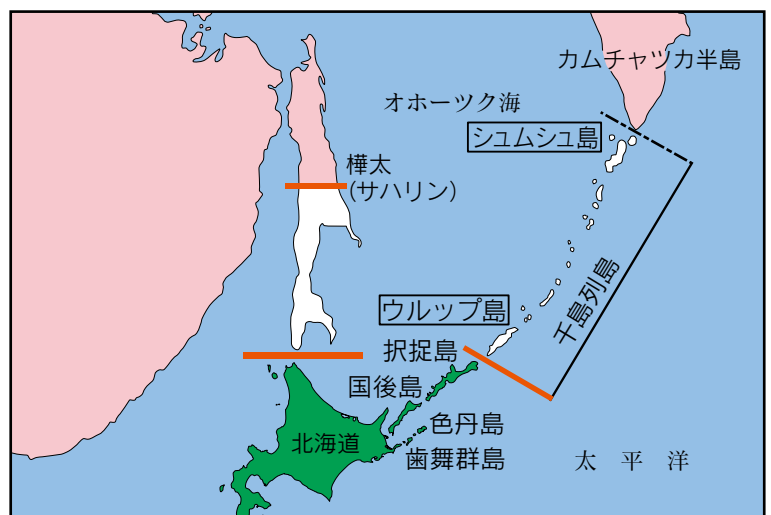
1951年（昭和26年）、日本は「サンフランシスコ平和条約」に調印し、千島列島と南樺太を放棄しました。このとき、日本が放棄した千島列島とは、ウルップ島から北の島々のことで、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島は含まれていません。

ソ連が「サンフランシスコ平和条約」に加わらなかったため、日本とソ連は、1956年（昭和31年）、「日ソ共同宣言」に署名し、国交を回復しました。「日ソ共同宣言」では、領土問題について、平和条約締結後に、歯舞群島と色丹島を日本に引き渡すことに同意しています。

●ソ連の不法占領



●1951年のサンフランシスコ平和条約に基づく国境線





日口間の最近の動きはどうなっているの？

日本とロシアの間では、領土問題を解決し、平和条約を締結するための外交交渉が粘り強く続けられてきました。

1993年（平成5年）に合意された「東京宣言」では、領土問題を北方四島の帰属の問題と位置づけるとともに、領土問題解決のための交渉指針が示されました。

2003年（平成15年）には「日口行動計画」が採択され、領土問題に関しては「日ソ共同宣言」や「東京宣言」などの諸合意を基礎に交渉を加速させることが確認されました。

2016年（平成28年）には、安倍総理大臣とプーチン大統領との間で、北方四島において共同経済活動を行うための協議の開始が合意されました。

2018年（平成30年）に行われた日口首脳会談では、「日ソ共同宣言」を基礎として平和条約交渉を加速させることが合意され、その後行われた日口首脳会談でも、引き続き平和条約交渉に取り組んでいくことが確認されていました。

そんな中、2022年（令和4年）2月にロシアによるウクライナ侵略が始まりました。その後、ロシアは平和条約交渉を継続しないことや四島交流等の事業に関わる合意の効力停止などを一方的に発表しました。

現在の日口関係は厳しい状況にありますが、日本政府は、領土問題を解決し、平和条約を締結する方針を堅持しています。



●東京宣言に署名する細川総理大臣とエリツィン大統領（1993年）



●日口行動計画に関する共同声明に署名する小泉総理大臣とプーチン大統領（2003年）



●日口首脳会談（2018年11月14日）
出典：首相官邸ホームページ



どうしたら北方領土は返ってくるの？

◆北方領土返還運動のあゆみ

北方領土問題を解決するためには、ロシアとの外交交渉を粘り強く続けることが必要です。こうした交渉を支えるのは、返還を求める国民の一致した世論と強い支持です。

北方領土の返還を求める声は、第二次世界大戦終了後まもなく、北海道の根室にあがりました。当時の安藤石典根室町長^{あんどういしすけ}は、ソ連によって島から追われた人たちの援護に全力をあげるばかりでなく、当時の日本を占領していた連合国軍最高司令官であるマッカーサー元帥あてに、北方領土返還を求める陳情書を出しました。これが、返還要求運動の始まりとされています。

根室であがった返還要求の声は、やがて北海道の各地にこたまし、運動の輪は全国に広がりました。多くの民間団体が返還運動に取り組み、運動の基盤となる都道府県単位の組織が設立されていきました。北方領土返還の実現を目指した運動は、全国各地で大きく展開されるようになっていくのです。



●北方領土復帰要請陳情書第1号



●全国縦断キャラバン隊の要望書を総理大臣へ伝達



●国際シンポジウム2004（富山会場）

◆返還運動のひろがり

北方領土の返還を求める人たちの間から、返還運動を一層推進するため、「北方領土の日」を制定したいという要望が高まり、1981年（昭和56年）、政府は2月7日を「北方領土の日」とすることを決定しました。

1855年（安政元年）の2月7日は、日本とロシアの間で最初に国境の取り決めが行われた「日魯通好条約」が結ばれた歴史的に大きな意義を持つ日です。

毎年、「北方領土の日」には、東京で「北方領土返還要求全国大会」が、内閣総理大臣、衆・参両院議長、各政党代表、民間団体代表などの出席のもとに開催されます。全国各地でも、この日を中心に、大会やパネル展、講演会などの行事が行われます。

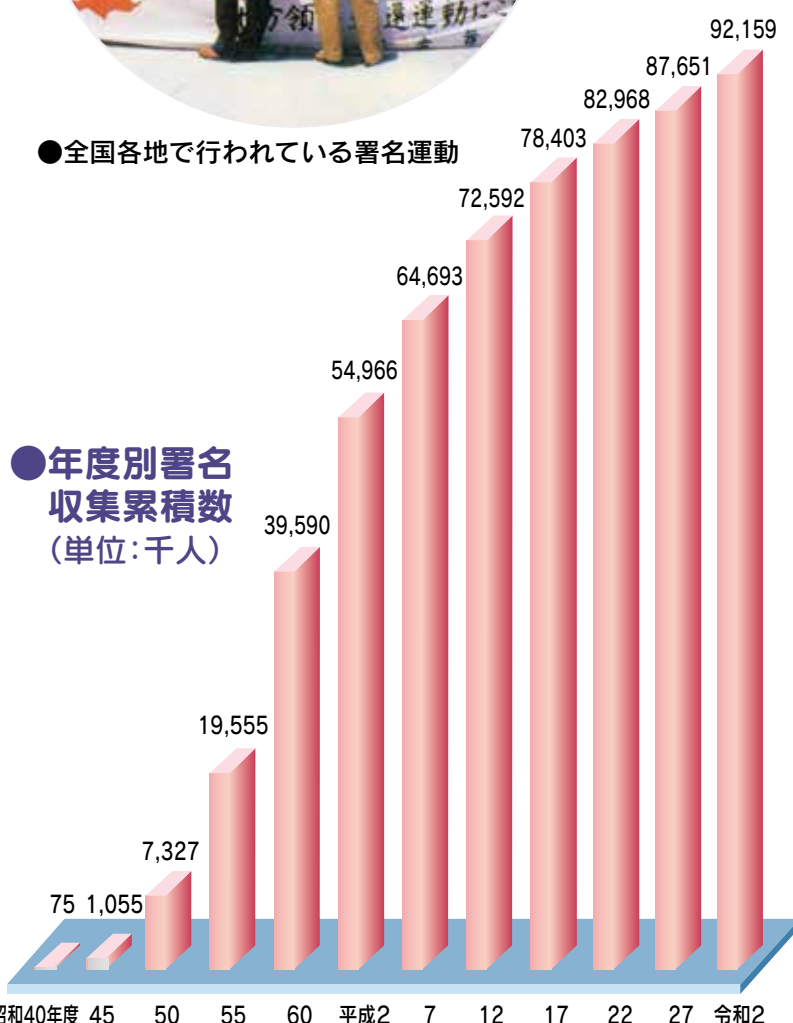
また、国民が北方領土返還を求めている意志を表明する手段として、署名活動が行われています。多くの人たちから寄せられた署名は、令和5年度末現在で9,407万人を超えています。

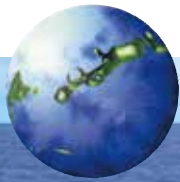


●北方領土返還要求全国大会（挨拶する石破総理大臣）



●全国各地で行われている署名運動





富山県と北方領土とのかかわり

富山県は、北方領土からの引揚者が北海道に次いで多い県です。

越中（富山県）と蝦夷地（北海道）とは、すでに江戸時代には交流がありました。北前船で日本海側を通る西廻り航路により、蝦夷地から大量のコンブが大阪に運ばれていました。その航路は「コンブロード」と呼ばれていました。富山は、「コンブロード」の中継地として発展していたのです。

また、当時の富山県を治めていた加賀藩は、漁師の出稼ぎを奨励していました。代々、神通川以東の33カ村の浦方十村（^{うらかた と むら}漁村の大庄屋）であった田村家の7代目である田村^{ぜん な}前名が、1818年（文政元年）に遠洋漁業を広めたとの記録も残っています。

1874年（明治7年）には、生地村（現在の黒部市内）の人々が北海道へ出稼ぎに行き、大きな利益を得たため、それ以降、出稼ぎに行く人々が増えていったとのことでした。

明治の終わりごろになると、富山県では、漁業不振と高波や火災による災害のため、漁師の生活は苦しいものになっていました。そのため、新しい漁業の場を求めて、すでに北海道の根室や羅臼で漁業経営者になっていた富山県出身者を頼って、大勢が出稼ぎに行きました。彼らは、「富山からの出稼ぎ者は、真面目によく働く」と言われ歓迎されたそうです。漁師たちは、歯舞群島にも渡り、自然や生活環境が厳しい中、コンブの漁場を開拓していきましました。良質なコンブがたくさん採れ、多くの人が豊かな生活を手に入れました。

大正時代になると、富山県から歯舞群島や色丹島に移り住む人も増え、「越中村」と呼ばれる村ができるくらいでした。

このように、根室や歯舞群島の漁場、とりわけコンブの漁場は、富山県の先人によって開拓され、発展したと言っても過言ではありません。北方領土へ渡った人々が支えたコンブは、現在の富山の食文化にも深く関わっています。



◆コンブ漁

歯舞群島や色丹島の住民のほとんどは、コンブ漁に従事していました。

コンブ漁の仕事は、厳しく大変なものでした。朝は5時ごろから始まり、夜は月が高く上るまで家族全員が働くのです。子どもたちも手伝いました。島ではたくさんのコンブが採れ、全国に運ばれました。富山県から島に渡った人々は、持ち前の粘り強さを発揮してコンブ漁を盛んにしていききました。

島ではジャガイモなどは採れましたが、米はほとんど育たず、米、みそ、しょう油などの品物は、富山県から送ってもらっていました。

島では、小学校の運動会や学芸会、神社の祭礼などが大変にぎやかに行われ、ほとんどの人が仕事を休んで集まり、楽しい一日を過ごしたそうです。

冬は、海が雪と氷でおおわれてしまい、コンブ漁ができない上に、寒さが厳しいので、富山県に帰って体を休め、春になってから島へ戻る人たちもいました。富山県から島までは、鉄道と船を乗り継いで1週間以上かかりました。



●コンブ干しの風景（国後島）



●小学校での運動会（色丹小学校／色丹島）



●お祭りの光景（国後島）

◆北方領土に渡った富山県民の人数

第二次世界大戦終了後、北方領土を占領したソ連軍は、島の住民を強制的に立ち退かせました。その際に、北方領土から富山県に引き揚げてきた人数は、1,425人だったとみられています。

引き揚げてきた人々が住んでいた島をみると、歯舞群島と色丹島に集中しています。とりわけ、歯舞群島から多くの人々が引き揚げてきました。

富山県人が歯舞群島に集中した理由としては、歯舞群島が北海道本島の根室に比較的近い島であるため、1877年（明治10年）以降から根室に行っていた富山県人によって開拓されていたことが考えられます。

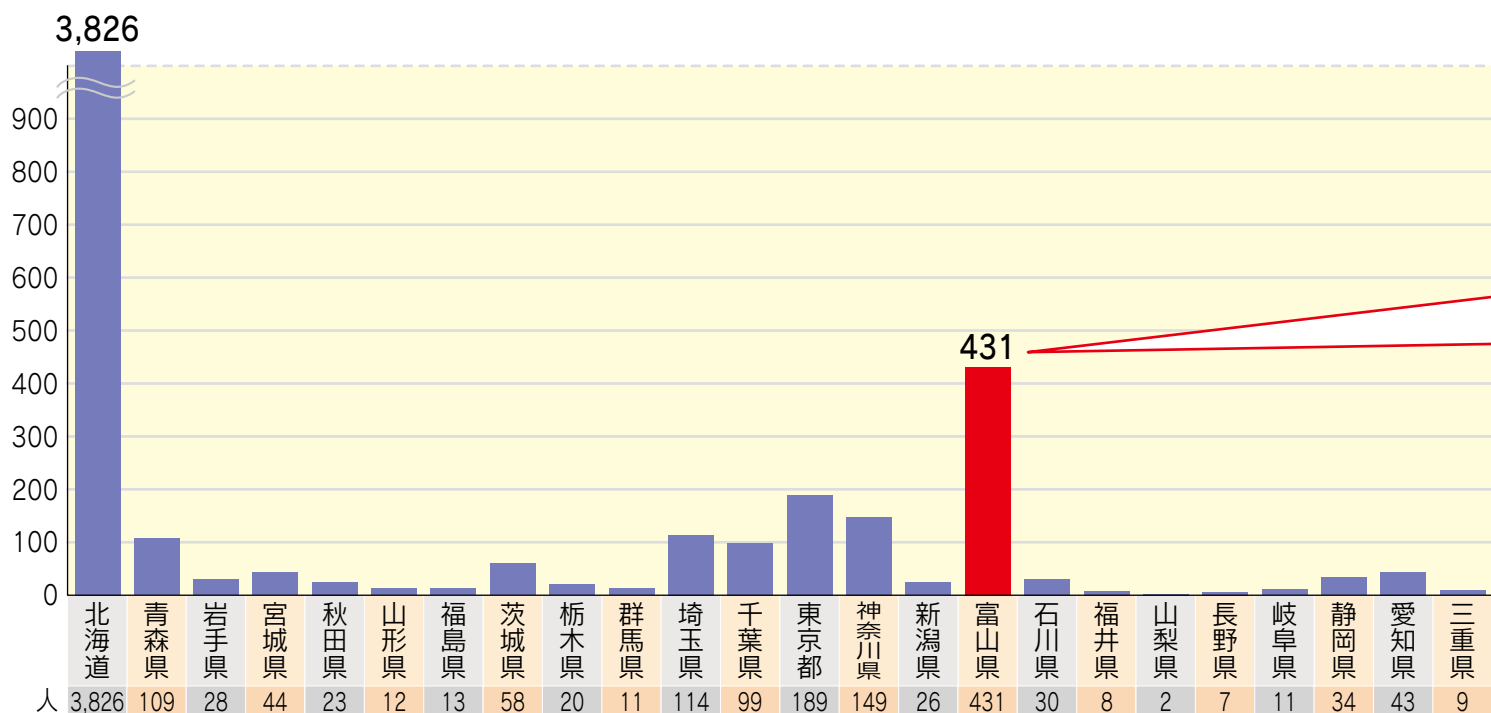
歯舞群島でコンブ採取や漁業を行うためには、コンブの干場の権利を持ち、根室または歯舞の漁業組合の組合員であることが必要でした。富山県からきた出稼ぎ者は、根室や島にいた富山県出身の親方（網元）から、有利な

●北方領土からの島別引揚者数（富山県関係）

志発島	多楽島	水晶島	勇留島	色丹島	計
746	330	221	59	69	1,425

志発島、多楽島、水晶島、勇留島は全て、歯舞群島に含まれます。

●北方領土の元島民数 令和6年（2024年）3月末現在数



条件で干場の権利を借りることができたのです。

島の住民が北方領土から引き揚げた後に居住した場所を市町村別にみると、ほとんどが黒部市と入善町に集中しており、9割以上を占めています。黒部市では生地地区、入善町では芦崎地区に、多くの人が引き揚げてきました。地域的には、黒部川の河口をはさんだ沿岸地域に集中しています。次いで、魚津市の経田地区が多く、その他では、滑川市や射水市にも元島民がいます。

黒部市出身者は、志発島を中心に多楽島や水晶島など歯舞群島の全域に広く分布していました。それに対し、入善町出身者は、志発島へ集中的に渡っていました。

島に渡った時期ですが、歯舞群島では、大正時代の中ごろから1935年（昭和10年）までに多くの世帯が渡島しました。

●富山県内の引揚者分布状況

黒部市	入善町	魚津市	その他	計
835	488	78	24	1,425

富山県への引揚者数（元島民）は1,425人でしたが、すでに900人以上が、ふるさとの島へ帰ることなく、無念のうちに亡くなられ、令和6年3月末現在は431人となっています。

富山県は北海道に次いで北方領土からの引揚者が多いんだね。

滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外
5	5	41	26	4	3	2	1	6	12	0	0	4	1	0	2	0	2	2	7	3	2	0	21



富山県における返還運動

◆千島連盟富山支部

富山県では、県内に住む元島民が、1961年（昭和36年）に「千島齒舞諸島居住者連盟富山支部」を結成し、早くから返還要求運動が進められました。千島連盟富山支部では、会員の元島民が県内各地の学校などで、島での思い出や返還への想いについて話す「出前講座」を開催しています。



●千島連盟富山支部 出前講座

◆復帰促進協議会

1969年（昭和44年）から1970年（昭和45年）ごろに、北洋漁場で日本の漁船がソ連に捕される事件が相次いだため、1970年に、富山県の漁業団体と沿岸市町村が抗議に立ち上がり、「北方領土復帰促進北洋安全操業富山県実行委員会」を結成しました。1979年（昭和54年）に「富山県北方領土復帰促進協議会」に改称し、ニューヨークの国連本部へ北方領土返還実現を要望するなどの運動を展開しました。

また、他都府県に先がけて、1970年から毎年^(※)、中学生を北海道へ派遣しています。2024年（令和6年）で第55回を数え、これまで中学生400人が納沙布岬から北方領土を望見しました。



●北方領土復帰促進北洋安全操業
富山県大会パレード（1970年 黒部市）



●復帰促進協議会
「少年少女北海道派遣団」結団式

(※) 2020年（令和2年）、2021年（令和3年）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

◆富山県民会議

富山県内では民間団体が独自に活発な返還要求運動を行ってきましたが、それらの活動を結集し、行政と一体となった返還要求運動を全県的に展開しようという気運が高まり、1982年（昭和57年）1月、「北方領土返還要求運動富山県民会議」が設立されました。

富山県民会議では、県民世論を盛り上げ、北方領土の早期返還を図るため、会員団体と協力し、「北方領土返還要求富山県大会」や2月7日「北方領土の日」記念事業など、さまざまな活動を行っています。また、2020年（令和2年）9月には、北方領土問題の啓発や返還運動の後継者育成、史料の保存・継承を図るため、「富山県北方領土史料室」を開館しました。

◆教育者会議

児童生徒の北方領土への理解と関心を深めるため、2003年（平成15年）、県内の小中学校の教諭が中心となり「富山県『北方領土問題』教育者会議」が設立されました。

教育者会議では、北方領土教育充実のための教材作成や授業研究などに取り組んでいます。

2007年（平成19年）からは、県内の中学生を対象とした「『私たちと北方領土』作文コンクール」を、2017年（平成29年）からは、県内の中学校を巡回する北方領土パネル展を実施しています。



●8月「北方領土返還要求富山県大会」



●富山県北方領土史料室



●「私たちと北方領土」作文コンクール表彰式



北方四島との交流事業

領土問題を解決するためには、日本とロシアの国民がお互いに親近感を持ち、領土問題についての正しい理解を深めることが大切です。

そのため、1992年（平成4年）から、日本人と北方四島在住ロシア人とが相互に渡航して交流を深める事業が行われています。「パスポート（旅券）・ビザ（査証）」なしでの渡航が認められているので、「ビザなし交流」と呼ばれています。

日本からは元島民やその家族、返還運動の関係者や文化・社会等の各分野の専門家などのほか、教育関係者や中学生なども北方四島を訪問しています。

2023年（令和5年）までの32年間で、北方四島を訪問した日本人は14,356人、北方四島から日本を訪れたロシア人は10,132人、計24,488人の相互訪問が実現しています。

◆富山県からの訪問

北方領土と関わりの深い富山県は、積極的に交流に参加しています。富山県から交流事業に参加して北方四島を訪問した人は、2023年（令和5年）までに、延べ190人います。北方四



●日本人墓地参拝（色丹島）



●獅子舞による交流



●万華鏡作り

島には船で渡り、現地の学校や企業の視察、日本人墓地の参拝や住民との意見交換などを行っています。

◆ロシアからの訪問

北方四島在住ロシア人による日本への訪問団は、北海道内や日本各地を訪問しています。2018年（平成30年）には、59人のロシア人訪問団が富山県を訪問しました。

富山県を訪れた訪問団は、ホームビジット（一般家庭の訪問）、県内の観光地や企業、文化施設の見学、県内に住む元島民などとの交流会を行っています。

このような交流を通じて、日本人とロシア人が率直な意見を交わすことにより、相互の理解を深めています。



●ホームビジット（2018年10月 富山県）



●ロシア人訪問団との夕食交流会（2018年10月 富山県）

●富山県からの北方四島訪問事業への参加者

年	計	年	計
1993年	2人	2009年	3人
1994年	1人	2010年	2人
1995年	2人	2011年	6人
1996年	1人	2012年	4人
1997年	3人	2013年	19人
1998年	7人	2014年	3人
1999年	34人	2015年	3人
2000年	3人	2016年	1人
2001年	1人	2017年	3人
2002年	9人	2018年	6人
2003年	8人	2019年	25人
2004年	9人	2020年	—
2005年	4人	2021年	—
2006年	20人	2022年	—
2007年	2人	2023年	—
2008年	9人		
合 計		190人	

●富山県を訪れた北方四島在住ロシア人訪問団の人数

区分	平成7年6月 成年訪問団	平成14年7月 青少年訪問団	平成16年5月 成年訪問団	平成19年10月 成年訪問団	平成21年6月 青少年訪問団	平成30年10月 成年訪問団
男性	18人	17人	26人	18人	10人	24人
女性	52人	13人	49人	26人	40人	35人
計	70人	30人	75人	44人	50人	59人

※2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響や、ロシアによるウクライナ侵略を受けた日ロ関係の悪化により、実施できていません。

参考文献および引用文献

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ●なるほど！なっとく！北方領土 | 独立行政法人北方領土問題対策協会 |
| ●北方領土返還実現に向けて | 独立行政法人北方領土問題対策協会 |
| ●青少年のための日本の領土・北方領土 | 根室市・独立行政法人北方領土問題対策協会 |
| ●ボクたちの北方領土 | 黒部市教育委員会 |
| ●私たちの北方領土（富山県編） | 独立行政法人北方領土問題対策協会 |
| ●四島交流と四島住民支援 | 外務省・支援委員会事務局 |
| ●われらの北方領土 | 外務省 |

資料や話を提供していただいた団体

内閣官房

内閣府

独立行政法人 北方領土問題対策協会

公益社団法人 千島歯舞諸島居住者連盟

千島歯舞諸島居住者連盟 富山支部

-
- 平成12年 7 月20日発行
 - 令和 7 年 3 月26日改訂
 - 編集・発行／北方領土返還要求運動富山県民会議
 - 印刷・製本／株式会社すがの印刷
-



北方領土返還要求運動のシンボルマークです。

